

# 「慢性の痛み」を取りまく課題の整理

## 本検討会の役割

---

- 慢性の痛みに関して、現状認識、問題点を整理する
- 慢性の痛み対策はどうあるべきか
- 国として何をすべきか、国民、社会、医療関係者に何を呼びかけていくべきか

## 慢性の痛み対策に必要な考え方

---

- 痛みをゼロにすることは非常に理想的であるが、患者の生活の質を高めることに支援のポイントを置き、痛みや苦しみを和らげるために、それぞれの立場で計画的かつ協力的に、痛み対策に取り組んでいく。
- 診療科や診療部門の枠組みを超えた総合的、集学的なアプローチが求められる。
- 患者個々の背景にあわせた診療を行う。

# 慢性の痛みを取りまく課題の整理

---

## ○ 「痛み」を対象とした医療と体制の確立

(痛みセンターの普及、「痛み」を対象とした医療が成り立つ仕組み、人材育成)

## ○ 「痛み」に関する正しい情報の提供

(患者と一般医、一般医と専門医の慢性の痛みに関する認識のギャップ)

## ○ 「難治性の痛み」への対策

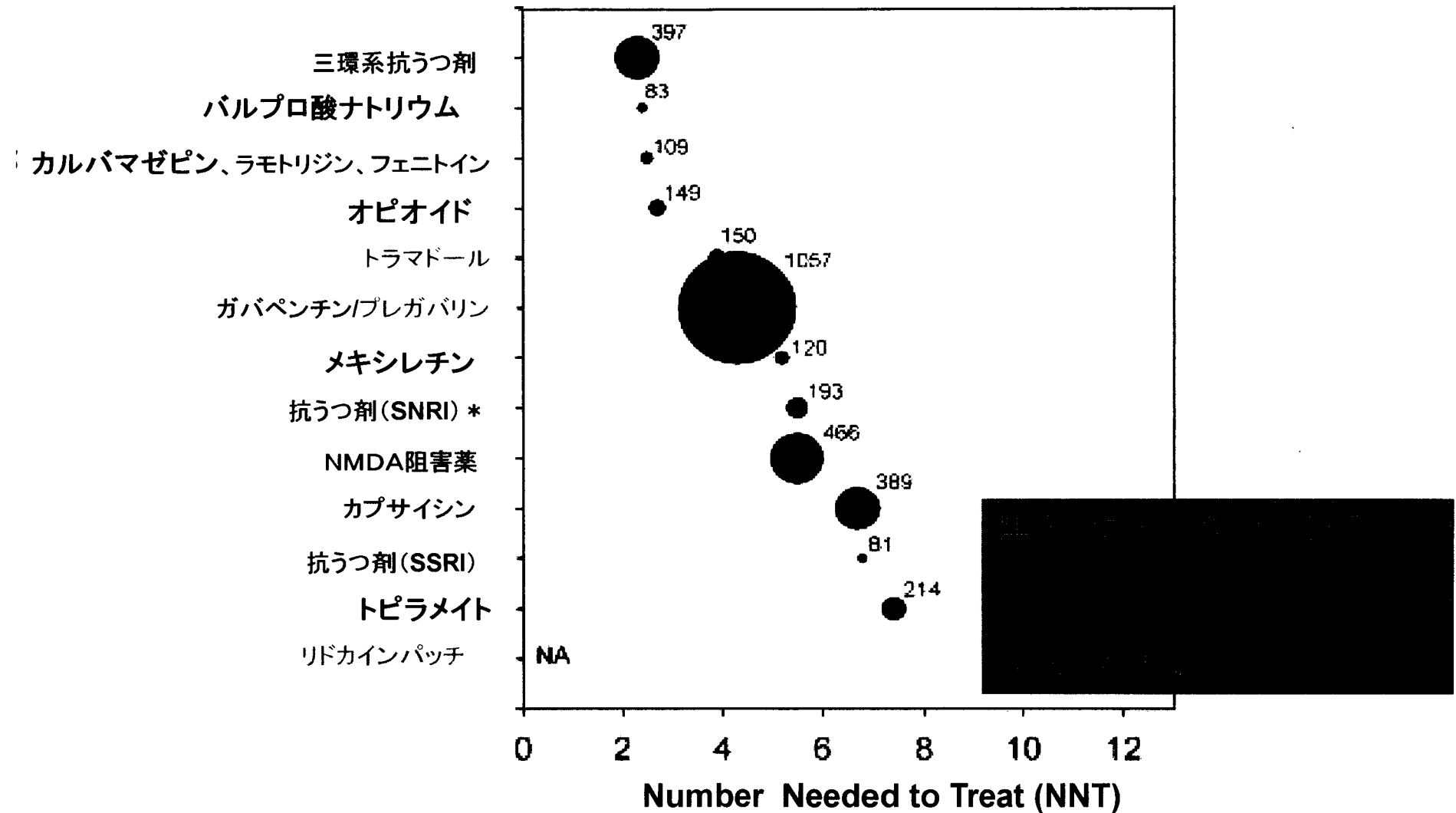
(未解明な痛みの存在、痛みを慢性化させない取り組み)

## ○ 臨床現場での問題点の解消

(有効性の乏しい治療の繰り返し、精神・心理的アプローチの可能性、未承認薬の使用)

# プレゼン資料(柴田委員)

# 神経障害性疼痛治療薬について



\* 本邦で発売されているものについては一部エビデンスなし。

(Finnerupら Pain 2005より改変)